

施策評価シート

施策等名称	文化芸術活動に関わる人材の育成	体系番号	0201020302
		主管課	生涯学習課

1 施策基本情報

現状と課題	文化施設や学校等において子どもを対象とした優れた演劇、音楽等の公演を実施し、また美術作品や文化財の鑑賞など子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供しています。子どもたちの好奇心や感性、創造性を育み、自ら文化芸術活動に取り組むきっかけづくりが求められていることから、地域・学校・文化施設等が連携し、様々な文化芸術を体験する機会を充実させることが大切です。また、若い世代の好奇心を引き出し、継続的な指導ができる人材、地域の指導者やリーダーとなる人材、活動と人をつなぐコーディネーターとなる人材の育成が求められています。世代やジャンルを超えた交流とネットワークを構築することで地域の文化芸術活動の担い手を増やし、活動を広げていくことが必要です。
-------	--

めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	文化芸術活動に関わる多様な人材の育成と、地域文化ネットワークの形成に取り組みます。
---------------------------	---

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	2027年度目標値
①	市民芸能祭(音楽祭・芸能祭)への参加団体数	団体	57	60	65
②	ネットワーク機能の構築		-	構築	
③					

施策の柱1	名称	子どもたちの創造力や感性を育む活動の充実		主管課	生涯学習課		
	詳細	保育園等や学校と連携し、優れた文化芸術を鑑賞・体験する機会の充実を図り、すべての子どもが鑑賞・創造の機会を持てるよう、文化施設、学校、NPO、事業者等が連携し企画運営に取り組みます。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	芸術鑑賞講座鑑賞率	鑑賞者数/対象者数×100(%)	98.00	100.00 100.00	1 青少年のための優良芸術鑑賞(芸術鑑賞講座事業費)	実施
	2	鑑賞者(チケット購入者)数	(人)	358	560 560	2 ファミリー演劇鑑賞事業	休止
	3					3	
						4	
						5	
						6	
	基本政策間連携						

施策の体系	名称	芸術家の育成と指導者の充実		主管課	生涯学習課		
	詳細	芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出するとともに、活動者、指導者等の情報を共有・提供する仕組みの構築を図ります。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	茅野市民館(劇場・音楽堂・美術館・図書室)の利用者数	(人)	148,734	150,000 158,000	1 市民館の管理運営事業(市民館費)	実施
	2	美術館収蔵作品展の入館者数	収蔵作品展(常設展)年間入館者数	6,118	6,200 6,500	2 美術館(美術館費)	実施
	3					3	
						4	
						5	
						6	
	基本政策間連携						

施策の柱3	名称	文化芸術活動を支える人材の育成		主管課	生涯学習課・中央公民館		
	詳細	講座、ワークショップを通じた人材育成を推進し、地域文化ネットワークの構築を推進するとともに、コーディネーターとなる人材の育成を図ります。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	茅野市民館(劇場・音楽堂・美術館・図書室)の利用者数	(人)	148,734	150,000 158,000	1 市民館の管理運営事業	実施
	2	分館からの申請事業数	分館から交付申請された事業数(分館報作成、お宝マップ作成事業を含む)	434	500 560	2 分館活動促進事業	実施
	3	地区講座・事業実施数	10地区公民館で開催された講座及び事業数(件)	53	56 60	3 地区公民館事業	実施
						4	
						5	
						6	
	基本政策間連携						

施策等名称	文化芸術活動に関わる人材の育成	体系番号	0201020302
		主管課	生涯学習課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
施策 1	市民芸能祭(音楽祭・芸能祭)への参加団体数	57	53	55	-	-	30	37
		60	88.33	91.67	-	-	50.00	61.67
変動要因等	2018年度	直近5年間で見て、参加団体数はほぼ横ばいで推移。市民活動における発表の場として定着している。市民自らによる運営を支援。						
	2019年度	直近5年間で見て、参加団体数はほぼ横ばいで推移。市民活動における発表の場として定着している。市民自らによる運営を支援。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。						
	2022年度	一定時間ごとに会場内の換気、消毒を実施する等、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら3年ぶりに開催することができた。しかし、活動を自粛している団体もあり、コロナ以前に比べて参加団体数は減少となった。						
	2023年度	新型コロナウイルスが5月に5類に移行したことに伴い、ほぼコロナ前の状況に戻して実施することができたが、コロナ禍で活動ができていなかった団体もあり、参加団体数はコロナ前の水準には戻っていない。						
施策 2	ネットワーク機能の構築	-	構築中	構築中	構築中	構築中	構築中	構築中
			未達成	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
変動要因等	2018年度	「茅野市文化芸術推進事業」による連携体制の確立。(文化庁助成事業。茅野市美術館(地域文化創造)が主体となり、関係部署との連携を推進)						
	2019年度	「茅野市文化芸術推進事業」による連携体制の確立。(文化庁助成事業。茅野市美術館(地域文化創造)が主体となり、関係部署との連携を推進)						
	2020年度	「茅野市文化芸術推進事業」実施に向け文化庁からの助成金を活用し、茅野市美術館(地域文化創造)が主体となり、関係部署との連携を推進する体制が整いつつある。						
	2021年度	「茅野市文化芸術推進事業」実施に向け文化庁からの助成金を活用し、茅野市美術館(地域文化創造)が主体となり、関係部署との連携を推進することができたが機能構築については研究が必要である。						
	2022年度	今後の取組について検討の必要がある。						
	2023年度	今後の取組について検討の必要がある。						
柱1 1	芸術鑑賞講座鑑賞率	98.00	98.00	97.00	-	-	94.00	95.00
		100.00	98.00	97.00	-	-	94.00	95.00
変動要因等	2018年度	学校行事(中級鑑賞教室)としても位置づけられるため、当日の欠席者を除くほぼ全員が鑑賞。						
	2019年度	学校行事(中級鑑賞教室)としても位置づけられるため、当日の欠席者を除くほぼ全員が鑑賞。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として鑑賞講座は中止となった。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として鑑賞講座は中止となり、事業計画がなかった。						
	2022年度	学校行事(中級鑑賞教室)としても位置づけられるため、当日の欠席者以外は鑑賞している。						
	2023年度	学校行事(中級鑑賞教室)としても位置づけられるため、当日の欠席者以外は鑑賞している。						
柱1 2	鑑賞者(チケット購入者)数	358	478	584	-	-	-	-
		560	85.36	104.29	-	-	-	-
変動要因等	2018年度	平成29年度はターゲットの中心を園児、低学年の児童として鑑賞者数が伸び悩んだため、平成30年度は園児から高学年の児童まで幅広く楽しめる演目を選定し、120名の増加となった。						
	2019年度	子どもたちに人気のあるミュージカル公演の上、ワークショップの実施により出演者の家族が多数鑑賞したため、例年に比べ鑑賞者数が伸びたと考えられる。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として演劇鑑賞は中止となった。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として演劇鑑賞は中止。事業自体は今年度で休止となるが、今年度できなかった演目については茅野市民館主催事業として来年度実施予定。						
	2022年度	休止。						
	2023年度	休止。						
柱2 1	茅野市民館(劇場・音楽堂・美術館・図書室)の利用者数	148,734	171,331	141,677	48,257	55,375	91,120	122,167
		150,000	114.22	94.45	32.17	36.92	60.75	81.44
変動要因等	2018年度	平成26年度から14万人台で推移していたが平成30年度は過去最高の17万人を超えとなった。市制60周年記念事業として著名なアーティストの公演、美術展を開催したことにより、今まで足を運んだことのない新たな利用者を獲得した。						
	2019年度	年度末から新型コロナウイルス感染症の影響により、貸館事業及び主催事業の多くが延期・中止となり利用者数の伸びがなかった。この影響は翌年度も続くと考えられる。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として4月、5月が臨時閉館となったことに加え、6月以降も収容人数の制限等感染防止対策をとりながらの開館となったため、貸館事業及び主催事業は大きな影響を受け、利用者数は大幅に減少した。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として4月、5月が臨時閉館となったことに加え、6月以降も収容人数の制限等感染防止対策をとりながらの開館となったため、貸館事業及び主催事業は大きな影響を受け、利用者数は大幅に減少した。						
	2022年度	コロナ禍ではあるが利用者は回復傾向にある。						
	2023年度	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことにより催事が増え、利用者数が回復した。						
柱2 2	美術館収蔵作品展の入館者数	6,118	7,273	4,903	6,193	6,315	8,939	10,963
		6,500	111.89	75.43	95.28	97.15	137.52	168.66
変動要因等	2018年度	1,155人増加。市制施行60周年記念企画展(東山魁夷作品の展示)の波及効果もあり、収蔵作品展への入館者が増加した。						
	2019年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、年度末に開催している収蔵作品展の関連企画等が中止となり入場者数が大幅に減少した。						
	2020年度	多くの事業が新型コロナの影響を受ける中、美術館収蔵作品展は例年並みの入場者数となった。これまでも藤森照信氏の収蔵作品展は開催してきたが、今回、藤森氏の冠をつけたことにより入場者数が増加したと推測される。						
	2021年度	多くの事業が新型コロナの影響を受ける中、美術館収蔵作品展は例年並みの入場者数となった。篠原昭登氏や藤森照信氏の収蔵作品展は知名度も高く入場者数が増加したと推測される。						
	2022年度	コロナ禍以前の入場者数と比べても増加。						
	2023年度	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことにより常設展の1回あたりの入場者数が増加した。						

施策等名称	文化芸術活動に関わる人材の育成	体系番号	0201020302
		所管課	生涯学習課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
柱3	茅野市民館(劇場・音楽堂・美術館・図書室)の利用者数	148,734	171,331	141,677	48,257	55,375	91,120	122,167
1		150,000	114.22	94.45	32.17	36.92	60.75	81.44
変動要因等	2018年度	平成26年度から14万人台で推移していたが平成30年度は過去最高の17万人を超えた。市制60周年記念事業として著名なアーティストの公演、美術展を開催したことにより、今まで足を運んだことのない新たな利用者を獲得した。						
	2019年度	年度末から新型コロナウイルス感染症の影響により、貸館事業及び主催事業の多くが延期・中止となり利用者数の伸びがなかった。この影響は翌年度も続くと考えられる。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として4月、5月が臨時閉館となったことに加え、6月以降も収容人数の制限等感染防止対策をとりながらの開館となったため、貸館事業及び主催事業は大きな影響を受け、利用者数は大幅に減少した。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として4月、5月が臨時閉館となったことに加え、6月以降も収容人数の制限等感染防止対策をとりながらの開館となったため、貸館事業及び主催事業は大きな影響を受け、利用者数は大幅に減少した。						
	2022年度	コロナ禍ではあるが利用者は回復傾向にある。						
	2023年度	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことにより催事が増え、利用者数が回復した。						
柱3	分館からの申請事業数	434	382	416	120	129	161	262
2		500	76.40	83.20	24.00	25.80	32.20	52.40
変動要因等	2018年度	事業交付金申請327件(対前年比40減)、分館報印刷補助55件(対前年比3増)。交付金の申請年度見直しの影響から減数となった。						
	2019年度	事業交付金申請364件(対前年比38増)、分館報印刷補助52件(対前年比3減)。						
	2020年度	事業交付金申請88件(対前年比276減)、分館報印刷補助32件(対前年比20減)。今年度は新型コロナウイルス拡大防止対策としてほとんどの事業が中止となった。						
	2021年度	事業交付金申請95件(対前年比7増)、分館報印刷補助34件(対前年比2増)。コロナ禍の中、各区で分館事業がなかなか実施できない状況が続いているが、工夫して事業が実施できた事例も見られた。						
	2022年度	事業交付金申請121件(対前年比26増)、分館報印刷補助40件(対前年比6増)。コロナ禍の中、各区で分館事業がなかなか実施できない状況が続いているが、感染対策及び内容の工夫等により、前年度よりは事業を実施することができた。						
	2023年度	新型コロナウイルス5類移行により各分館で少しずつ活動を行っていきという機運があり、前年度より分館事業の実施数が増えた。人口減少・高齢化等により分館活動の参加者、担い手が少なくなっている。分館活動推進のため、市は事業交付金により支援していく。						
柱3	地区講座・事業実施数	53	50	40	8	1	19	37
3		56	89.29	71.43	14.29	1.79	33.93	66.07
変動要因等	2018年度	地区講座13件開催。地区によりばらつきがあるため、他地区事例等により未実施地区を減らしていく。地区事業37件実施。分主会による住民参加事業として継続実施していく。						
	2019年度	地区講座11件開催(12件予定したが新型コロナの影響により1件中止)。地区事業29件実施(35件予定したが新型コロナの影響により6件中止)。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染防止対策としてほとんどの事業を中止した。地区事業は3件(当初予定48件)。今後も感染状況を見ながら分主会による住民参加事業として継続実施を支援していく。地区講座開催は5件。						
	2021年度	地区事業は1件(当初予定32件)。地区講座開催は0件。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、地区事業の実施が消極的になり、ほとんどの事業が中止となった。						
	2022年度	地区事業は7件(当初予定30件)。地区講座開催は12件。コロナ禍で地区事業の実施が難しい状況が続いているが、感染対策及び内容の工夫等により、前年度よりは事業を実施することができた。						
	2023年度	地区事業は23件(当初予定34件)。地区講座開催は14件。新型コロナウイルス5類移行により地区事業再開の機運があり、前年度よりは事業を実施することができたが、事業継承がコロナ禍で途絶え、再開が大変だった。今後は事業のあり方、内容の見直しも含め各地区で検討が必要。						

施策等名称	文化芸術活動に関わる人材の育成	体系番号	0201020302
		主管課	生涯学習課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目	2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		2018年~2023年(総括)	
	投資額	事業費(円)	218,125,783	215,216,830	0.99	217,172,511	1.01	233,063,013	1.07	250,785,504	1.08	257,405,114
(2018年~2023年(総括)については2023年の実績を記載)	うち一財(円)	212,167,815	207,771,550	0.98	201,970,503	0.97	229,776,005	1.14	243,240,364	1.06	238,049,599	0.98
増減理由(一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)												
進捗評価	おおむね順調		おおむね順調		やや遅れている		やや遅れている		おおむね順調		おおむね順調	
総合評価	主な取組内容や成果	小中学校における優良芸術鑑賞講座、親子で楽しむファミリー演劇鑑賞を中心に子どもたちの好奇心や感性を育む取組が継続され、文化芸術に触れる機会や創造に関わるきっかけづくりとなっている。芸術祭や指定管理者による人材育成事業により団体の連携やサポーターの育成も進んだ。	ファミリー演劇鑑賞事業の際、ワークショップを実施し鑑賞するだけでなく舞台に立つ機会の提供も行った。子どもたちの好奇心や感性を育み、文化芸術に触れる機会や創造に関わるきっかけづくりとなっている。芸術祭や指定管理者による人材育成事業により団体の連携やサポーターの育成も進んだ。	コロナ感染症の影響により文化芸術活動の場は減少したが、感染症対策の徹底により、活動を続けていくための機会づくりの提供や、情報発信を行った。舞台など映像の配信により実際に会場に行かなくても、また、限定された期間でもだれもが鑑賞する機会や発表する機会を構築することができた。	感染症対策の徹底により、活動を続けていくための機会づくりの提供や、情報発信を行った。また、オンラインによる演劇体験など新たな取り組みにも挑戦し人材育成を図ることができた。分館事業についても微増であるが工夫することにより実施できた事例もあった。	(R4評価)劇場や美術館に関わる人を増やす事業では、対面でのワークショップや合同で集まる事業を再開。公民館活動では地区文化祭、分館事業が実施できた。(総括評価)映像配信やオンラインの活用など新たな取り組みにも挑戦し人材育成を図ることができた。今後も活動を広げていく必要がある。	小中学校の優良芸術鑑賞講座などの実施により子どもたちに演劇、音楽等に触れ、文化芸術を体験することができた。また、中央公民館では、芸術祭や地区講座、分館事業の実施数も増え、地域での活動も増えてきたが、まだコロナ前の水準に戻っていない。					
	課題	ファミリー演劇鑑賞事業は単に公演を実施するだけでなく、企画から当日の運営に市民が参加し、地域に文化芸術を楽しむ風土を根付かせることを目的としている。演目と鑑賞するターゲットのマッチングにより鑑賞者は大幅に増加したが委員の固定化や新たな委員の獲得は難しくなっている。	新型コロナウイルス感染症の影響により、文化的なイベントの自粛が今後とも続くことが懸念される。こうした中、多様な文化芸術活動を身近に感じ触れることのできる取組をどのように実施していくかが課題となる。	コロナ感染症の影響により、文化的なイベントの自粛が続いている中、芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出することのできる取組の検討は今後とも課題である。	昨年に引き続きコロナ感染症の影響により、文化的なイベントの自粛が続いている中、芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出することのできる取組の検討は今後とも課題である。	(R4・総括評価共通)新型コロナウイルス感染症による活動制限は緩和されていくが、コロナ禍で停滞してしまった活動を元に戻していくことが課題となっている。芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出することのできる取組の検討は今後とも課題である。	コロナ禍で停滞したため、活動の参加者や担い手が少なくなってきた。参加者や担い手を増やし、活動を元に戻していくことが課題。また、芸術家が市内で活躍できる機会や市民等と交流する機会を創出することのできる取組の検討は今後とも課題である。					
改革・改善	改革・改善内容	全ての市民が文化芸術に触れる機会が持てるようPRを工夫するとともに、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。	全ての市民が文化芸術に触れる機会が持てるようPRを工夫するとともに、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。	文化庁などによる文化芸術活動への支援策の活用について情報提供を行っていく。また、コロナ禍においても全ての市民が文化芸術に触れる機会や、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。	文化庁などによる文化芸術活動への支援策の活用について情報提供を行っていく。また、コロナ禍においても全ての市民が文化芸術に触れる機会や、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。	(R4・総括評価共通)地区事業の再開を図るとともに、分館支援を行っていく。次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。	地区事業の再開を図るとともに、事業のあり方、見直しを含め検討していく。また、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるよう、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。					
	重点化する施策の柱	1	2	2	2	2	2					
	重点業務	2	2	2	2	2	2					
理由	次世代を担う子どもたちの感性を育む取組の企画・運営に主体的に関わる市民を増やしていくことが重要である。	美術館の作品を通して、文化芸術に関わる多様な人材を育むとともに、地域における芸術活動の活性化を図り、地域の住民が身近な芸術に触れられる機会を充実することは重要である。	地元ゆかりのある作者の作品から好奇心や感性、創造性を育むきっかけづくりになる。文化芸術に関わる多様な人材を育むとともに、地域における芸術活動の活性化を図り、地域の住民が身近な芸術に触れられる機会を充実することは重要である。	地元ゆかりのある作者の作品から好奇心や感性、創造性を育むきっかけづくりになる。文化芸術に関わる多様な人材を育むとともに、地域における芸術活動の活性化を図り、地域の住民が身近な芸術に触れられる機会を充実することは重要である。	地元ゆかりのある作者の作品から好奇心や感性、創造性を育むきっかけづくりになる。文化芸術に関わる多様な人材を育むとともに、地域における芸術活動の活性化を図り、地域の住民が身近な芸術に触れられる機会を充実することは重要である。	地元ゆかりのある作者の作品から好奇心や感性、創造性を育むきっかけづくりになる。文化芸術に関わる多様な人材を育むとともに、地域における芸術活動の活性化を図り、地域の住民が身近な芸術に触れられる機会を充実することは重要である。						
作成担当者	北澤 ゆき子	伊藤 利恵	伊藤 利恵	伊藤 利恵	伊藤 利恵	武居 直樹						
最終評価責任者	平出 信次	北沢 政英	北沢 政英	北沢 政英	上田 佳秋	上田 佳秋						
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	2023年10月18日	2024年7月11日						